

2023年度第3四半期 決算説明資料

2024年2月9日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 業績総括
2. 2023年度 第3四半期業績
3. 2023年度 業績見通し
4. 参考情報

1. 業績総括

2023年度第3四半期業績

(対前年同期)

- 自動車の生産台数は、**半導体不足影響の緩和**などにより前年同期比で増加したものの、**IT・半導体分野における需要の減少**や、**建築・土木分野**などの需要低迷などにより、**鉄鋼・アルミ板**の販売数量は減少。
- **経常利益**は、**鉄鋼・アルミ板**での販売数量の減少、**在庫評価影響の悪化**、**建設機械**での**エンジン認証問題**に関する補償金収入の剥落があったものの、**鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善**や、**電力**での**神戸発電所4号機の稼働**や**燃料費調整の時期ずれ影響の改善**、**売電価格に関する一過性の増益影響**（**売電価格の指標となる石炭の輸入貿易統計価格と当社購入価格の差異**）などにより、**前年同期比590億円増益の1,339億円**（過去最高益）。親会社株主に帰属する当期純利益は、**経常利益の増益に加え、子会社において固定資産の譲渡益**を計上したことなどから、**前年同期比622億円増益の1,097億円**（過去最高益）。

2023年度通期業績見通し

(対前回見通し)

- **建築・土木分野**での需要低迷や、**IT・半導体分野**での**需要調整局面の継続**などに伴う**素材系事業での販売数量の減少**、**中国・欧州**を中心とした**建設機械での販売台数の減少**を見込む一方、**需要が好調な機械**においては、**受注高の更なる増加**を見込み、**過去最高を記録した前期を上回る見通し**。
- **経常利益**は、**素材系事業・建設機械**での**販売数量の減少**があるものの、**鉄鋼メタルスプレッドの改善**、**受注好調な機械**での**増益**、**電力**での**燃料費調整の時期ずれに伴う増益影響の拡大**、**売電価格に関する一過性の増益影響**などにより、**前回見通し比50億円増益の1,500億円（ROIC6.7%）**程度の見通し。なお、親会社株主に帰属する当期純利益は、**前回並みの1,200億円程度**の見通し。

(単位：億円)

	2022年度実績		2023年度 見通し(前回)	2023年度見通し(今回)		前年度比増減		前回は増減
	3Q累計 ①	通期 ②		3Q累計実績 ④	通期 ⑤	3Q累計 ④-①	通期 ⑤-②	通期 ⑤-③
売上高	17,846	24,725	25,700	18,737	25,600	+890	+875	△100
営業損益	538	863	1,650	1,382	1,650	+844	+787	-
鉄鋼アルミ	410	419	255	266	255	△143	△164	-
素形材	△1	9	20	6	20	+7	+11	-
溶接	15	28	40	33	40	+17	+12	-
機械	※1 82	※1 157	260	181	275	+99	+118	+15
エンジニアリング	26	41	80	116	80	+90	+39	-
建設機械	107	123	110	95	75	△12	△48	△35
電力	64	245	700	635	800	+571	+555	+100
その他	※1 33	※1 48	35	29	40	△4	△8	+5
調整額	8	△7	△50	△26	△85	△35	△78	△35
経常損益	748	1,068	1,450	1,339	1,500	+590	+432	+50
在庫評価影響を除く	443	828	1,415	1,334	1,445	+890	+617	+30
特別損益	△77	△87	277	※2 278	278	+355	+365	+1
親会社株主に帰属する 当期純損益	475	725	1,200	1,097	1,200	+622	+475	-

※1 (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更 ※2 子会社における固定資産の譲渡益 (8月4日プレスリリース資料参照)、他これに伴い、対比元の2022年度実績の業績数値を再集計

（ ）は需要変動の影響を受けるユニット

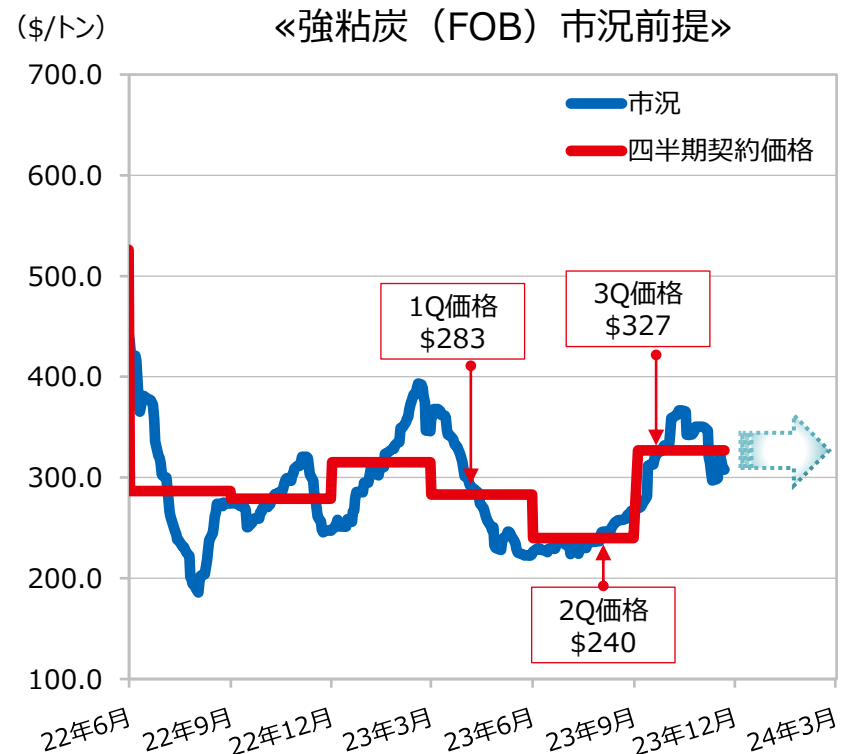
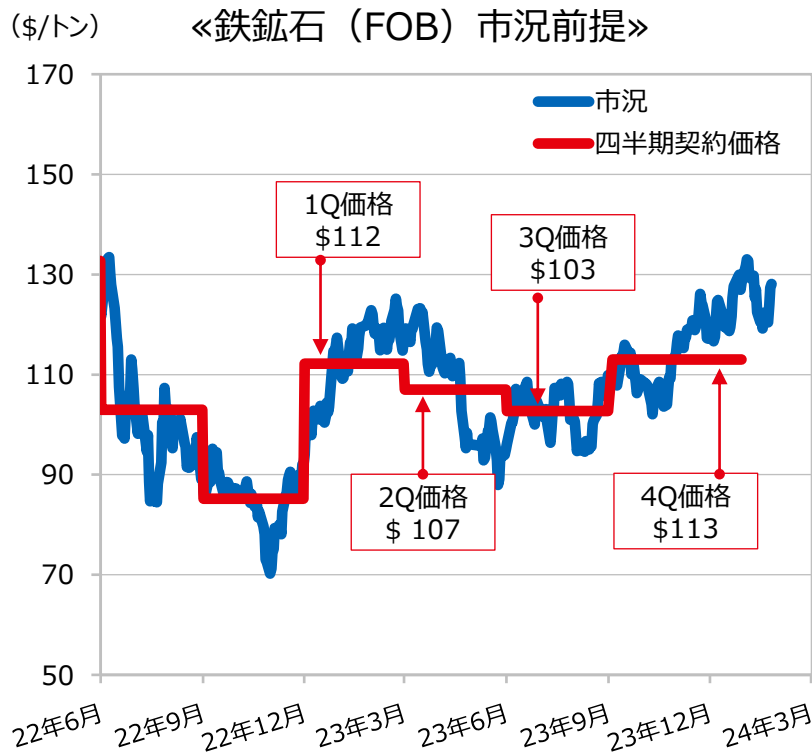
<p>自動車</p>	<p>(鉄鋼、アルミ板、アルミ押出、サスペンション、銅板、鉄粉、溶接)</p> <p>■ 国内生産・海外生産ともに堅調に推移。</p> <p>《日系自動車メーカー生産台数（海外含む）の想定》 * 2019年度平均比</p> <table border="1" data-bbox="368 358 1939 525"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">2022年度 実績</th> <th colspan="4">2023年度前回</th> <th colspan="4">2023年度今回</th> </tr> <tr> <th>上期</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>年度</th> <th>上期</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>増減率</td> <td>△14%</td> <td>△10%</td> <td>△4%</td> <td>△10%</td> <td>△9%</td> <td>△7%</td> <td>△3%</td> <td>△8%</td> <td>△6%</td> </tr> </tbody> </table>		2022年度 実績	2023年度前回				2023年度今回				上期	3Q	4Q	年度	上期	3Q	4Q	年度	増減率	△14%	△10%	△4%	△10%	△9%	△7%	△3%	△8%	△6%
	2022年度 実績			2023年度前回				2023年度今回																					
		上期	3Q	4Q	年度	上期	3Q	4Q	年度																				
増減率	△14%	△10%	△4%	△10%	△9%	△7%	△3%	△8%	△6%																				
<p>IT・半導体</p>	<p>(アルミ板、アルミ鋳鍛、銅板)</p> <p>■ ディスク材・半導体製造装置向けともに、需要調整局面が継続し、前回比で減少。 (下期以降緩やかに回復しているが、本格的な回復は来期以降になると想定)</p>																												
<p>造船</p>	<p>(鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接)</p> <p>■ 前回並み。(手持ち工事量は高水準なものの、人手不足が顕在化)</p>																												
<p>航空機</p>	<p>(チタン、アルミ鋳鍛)</p> <p>■ 前回並み。(回復基調が継続)</p>																												
<p>飲料用缶</p>	<p>(アルミ板)</p> <p>■ 物価高の影響などを受け、前回比で減少。</p>																												
<p>建築・土木</p>	<p>(鉄鋼、溶接)</p> <p>■ 人手不足や建設コスト上昇により、工事の中止や工期の後ろ倒しが継続し、前回比で減少。</p>																												

鉄鉱石： 4Q価格は\$113で決着済み。

強粘炭： 3Q価格は\$327で決着済み。4Q価格は**3Q価格並み**を想定。

一般炭： 上昇方向だった市況は9月の\$160前後をピークに反転。12月は\$130~150の間で推移。
4Q価格は足元の市況をベースに想定。

原料市況



2. 2023年度 第3四半期業績

【売上高】 1兆8,737億円（前年同期比+890億円）

- 素材系事業や建設機械における販売価格改善の進展、機械・エンジニアリングでの受注案件の進捗、電力での神戸発電所4号機の稼働などにより増収

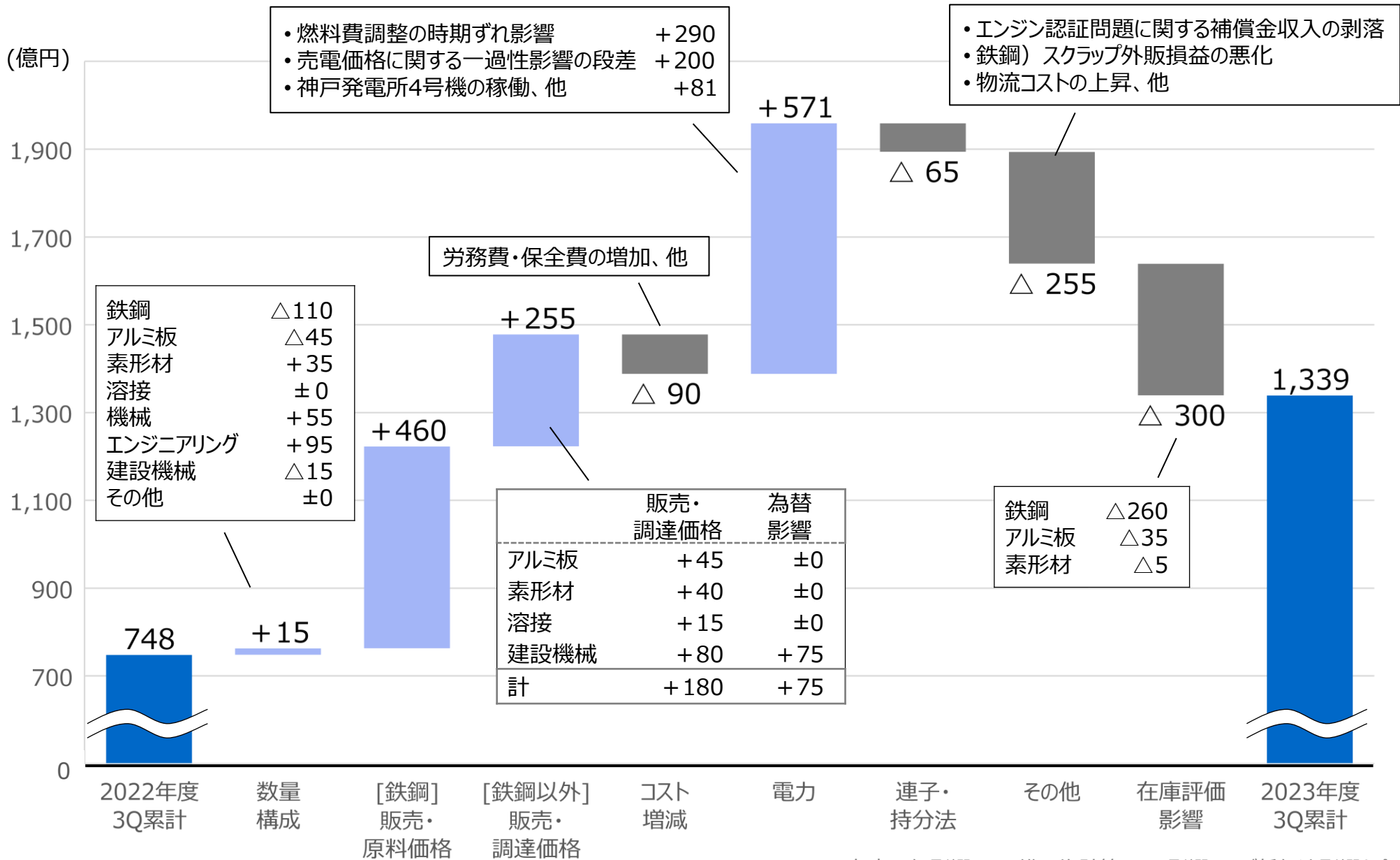
【経常損益】 1,339億円（前年同期比+590億円）

- 鉄鋼・アルミ板での販売数量の減少、在庫評価影響の悪化、建設機械でのエンジン認証問題に関する補償金収入の剥落があったものの、鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善（原料炭価格の下落と販売価格改善の進展）、機械・エンジニアリングでの売上高の増加、電力での神戸発電所4号機の稼働や燃料費調整の時期ずれ影響の改善、売電価格に関する一過性の増益影響などにより増益

（単位：億円）

	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	17,846	18,737	+890
営業損益	538	1,382	+844
経常損益	748	1,339	+590
在庫評価影響を除く	443	1,334	+890
特別損益	△77	※ 278	+355
親会社株主に帰属する四半期純損益	475	1,097	+622

※ 子会社における固定資産の譲渡益（8月4日プレスリリース資料参照）、他



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	8,265	8,128	△137
素形材	2,037	2,184	+146
溶接	647	701	+54
機械	※ 1,383	1,570	+186
エンジニアリング	985	1,178	+192
建設機械	2,804	3,044	+239
電力	2,131	2,339	+207
その他	※ 68	72	+4
調整額	△479	△482	△3
合計	17,846	18,737	+890

【経常損益】

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計 ③	2023年度 3Q累計 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	410	266	△143
素形材	△1	6	+7
溶接	15	33	+17
機械	※ 82	181	+99
エンジニアリング	26	116	+90
建設機械	107	95	△12
電力	64	635	+571
その他	※ 33	29	△4
調整額	8	△26	△35
合計	748	1,339	+590

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計

(単位：億円)

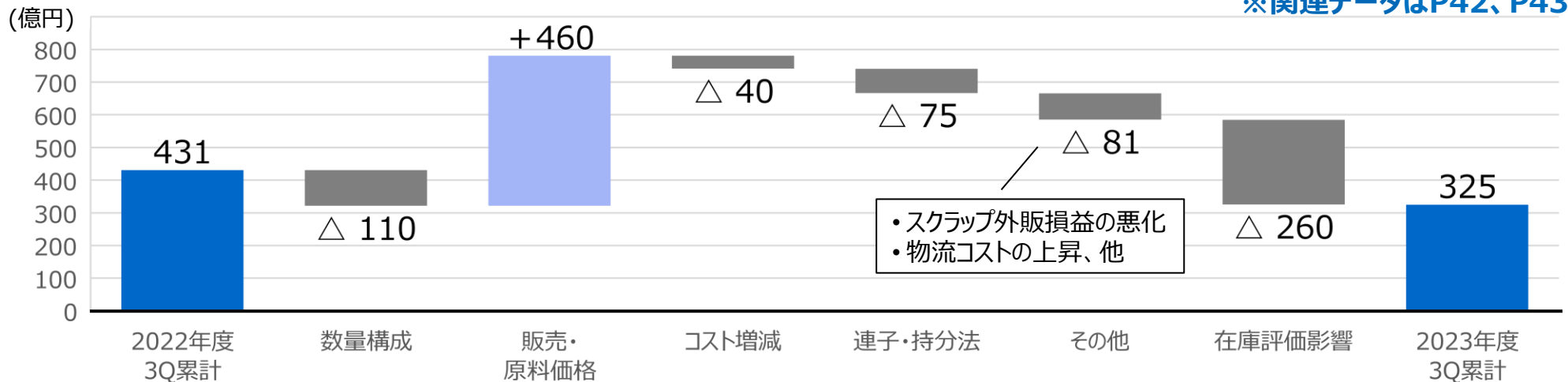
		2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	6,789	6,691	△98
	経常損益	431	325	△105
	在庫評価影響を除く	206	360	+154
アルミ板	売上高	1,475	1,436	△39
	経常損益	△21	△59	△37
	在庫評価影響を除く	△76	△79	△2
合計	売上高	8,265	8,128	△137
	経常損益	410	266	△143
	在庫評価影響を除く	130	281	+151

鉄
鋼

【売上高】 2022年度3Q : 6,789億円 → 2023年度3Q : 6,691億円（前年同期比△98億円）
【経常損益】2022年度3Q : 431億円 → 2023年度3Q : 325億円（前年同期比△105億円）

- 粗鋼生産 : 447万t（前年同期比△21万t）
- 販売数量 : 359万t（前年同期比△16万t）
 - ・自動車向けは需要回復に伴い増加の一方、自動車向け以外の需要減などにより減少
- 販売価格 : 141,600円/t（前年同期比+2,500円/t）
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少（厚板工場・仕上圧延機の更新影響を含む）
 - ・メタルスプレッドの大幅な改善（原料炭価格の下落と販売価格改善の進展）
 - ・保全費などの固定費を中心としたコストの増加
 - ・米国関係会社の業績悪化
 - ・在庫評価影響の悪化

※関連データはP42、P43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】 2022年度3Q : 1,475億円 → 2023年度3Q : 1,436億円（前年同期比△39億円）

【経常損益】2022年度3Q : △21億円 → 2023年度3Q : △59億円（前年同期比△37億円）

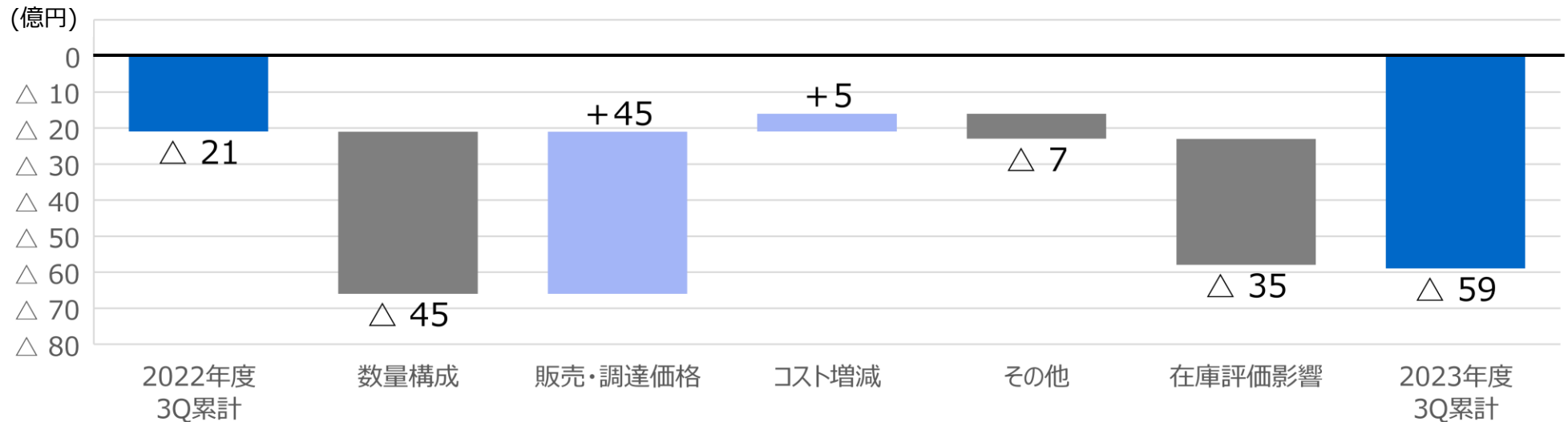
■ 販売数量 : 238千t（前年同期比△15千t）

- 飲料用缶材向け : 当社受注製品の需要減により減少
- 自動車向け : 前年同期並み
- IT・半導体向け : 半導体製造装置向け厚板、データセンター向けディスク材ともに、需要の調整局面を受けて大幅に減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 在庫評価益の縮小

※関連データはP42、P43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	(単位：億円) 増減 ②-①
売上高	2,037	2,184	+146
経常損益	△1	6	+7
在庫評価影響を除く	△26	△13	+12

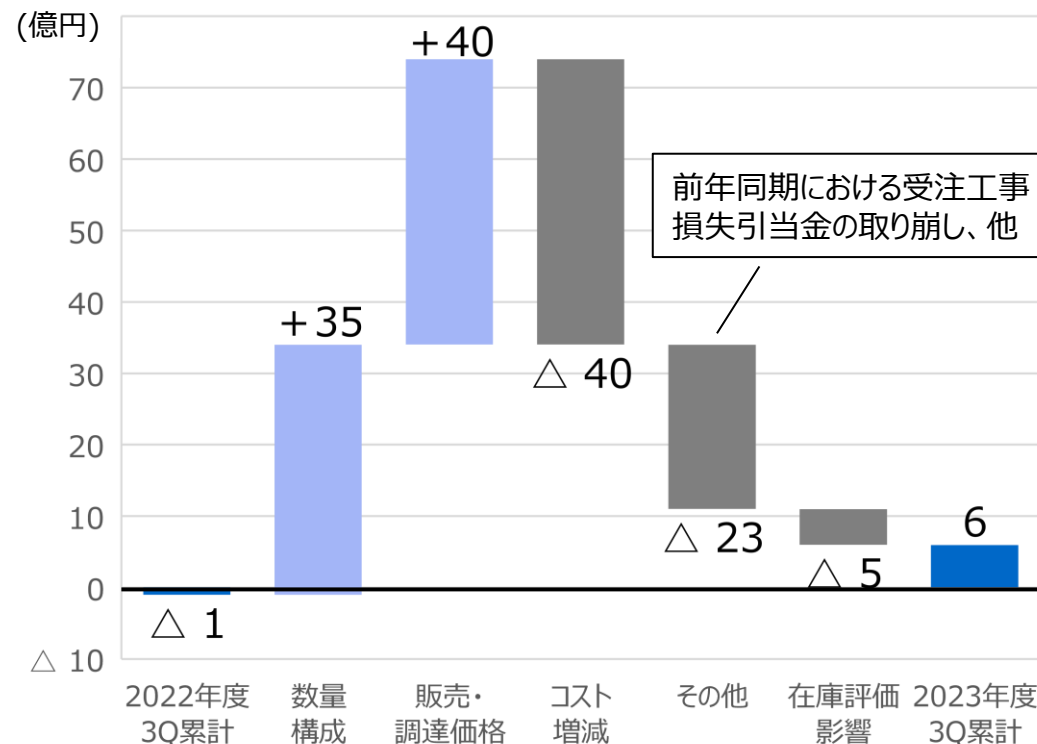
※関連データはP42、P43

■ 販売数量

- 造船向け需要の取り込みにより、鋳鍛鋼で増加
- 自動車向け需要の回復により、アルミ押出・サスペンションで増加
- IT・半導体向け需要の減少により、銅板、アルミ鋳鍛で減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の増加
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 労務費などの固定費を中心としたコストの増加



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	647	701	+ 54
経常損益	15	33	+ 17

※関連データはP42

■ 販売数量

国内：前年同期並み

海外：東南アジアでの需要回復遅れや、中国での日系自動車・建設機械向け需要減などにより減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計 ①※	2023年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	1,383	1,570	+186
経常損益	82	181	+99
受注高	1,890	1,798	△92

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向けを中心に増加
- 樹脂機械で大型案件を受注した前年同期と比較すると減少

■ 損益変動要因

- 前年度の好調な受注やサービス案件の増加に伴う売上高の増加
- 好調な需要を受けた受注採算の改善

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	985	1,178	+192
経常損益	26	116	+90
受注高	1,052	1,435	+382

■ 受注高

- 還元鉄関連事業で海外大型案件を受注したことや、廃棄物処理関連事業での堅調な受注などにより増加

■ 損益変動要因

- 還元鉄関連事業や廃棄物処理関連事業を中心とした案件構成差

	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②
売上高	2,804	3,044
経常損益	107	95

(単位：億円)

増減 ②-①
+239
△12

※関連データはP42

■ 販売台数

[油圧ショベル]：前年同期並み

- 中国は需要低迷により減少
- 欧州はエンジン認証問題などにより減少
- 北米などで増加

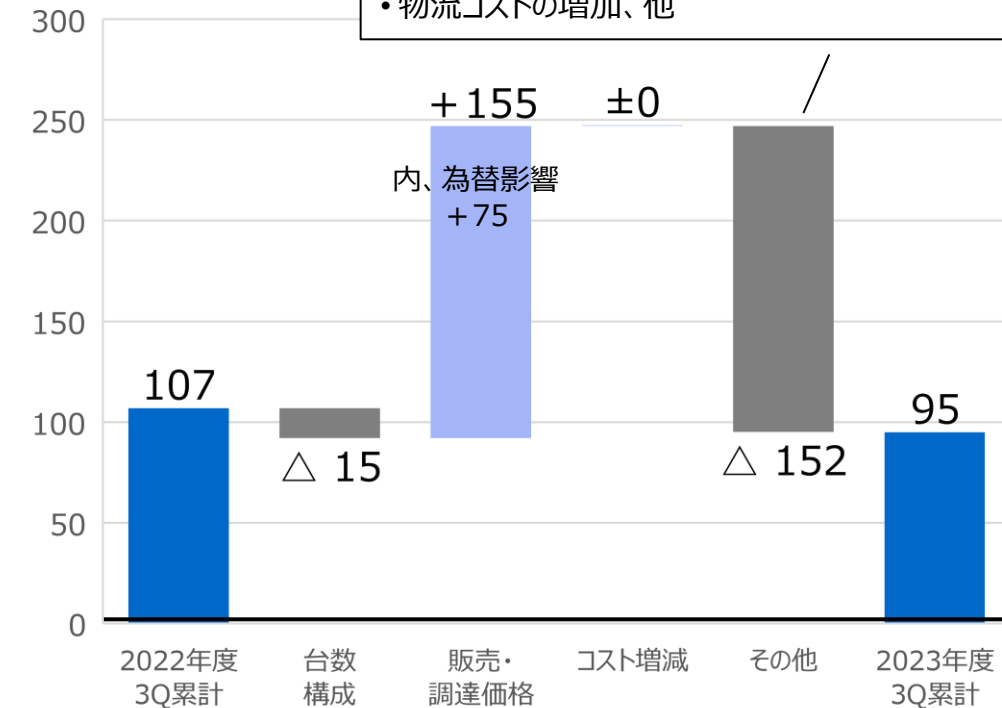
[クローラクレーン]：前年同期並み

- 欧州はエンジン認証問題などにより減少
- 北米などで増加

■ 損益変動要因

- 対ドル、ユーロでの円安による輸出採算の改善
- エンジン認証問題に関する補償金収入の剥落

(億円)



	2022年度 3Q累計 ①	2023年度 3Q累計 ②	(単位：億円) 増減 ②-①
売上高	2,131	2,339	+207
経常損益	64	635	+571

※関連データはP48

■ 販売電力量

- 4号機（2023年2月に営業運転開始）の稼働に伴い増加

■ 販売単価

- 一般炭価格の変動に伴い前年同期比で下落

■ 損益変動要因

- 神戸発電所4号機の稼働
- 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれ影響の改善
- 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性の増益影響
※前年同期は損失影響が発生し、当期は増益影響が発生

3. 2023年度 業績見通し

【売上高】 前回：2兆5,700億円 → 今回：2兆5,600億円（前回比△100億円）

- 建設機械での販売数量の減少、他

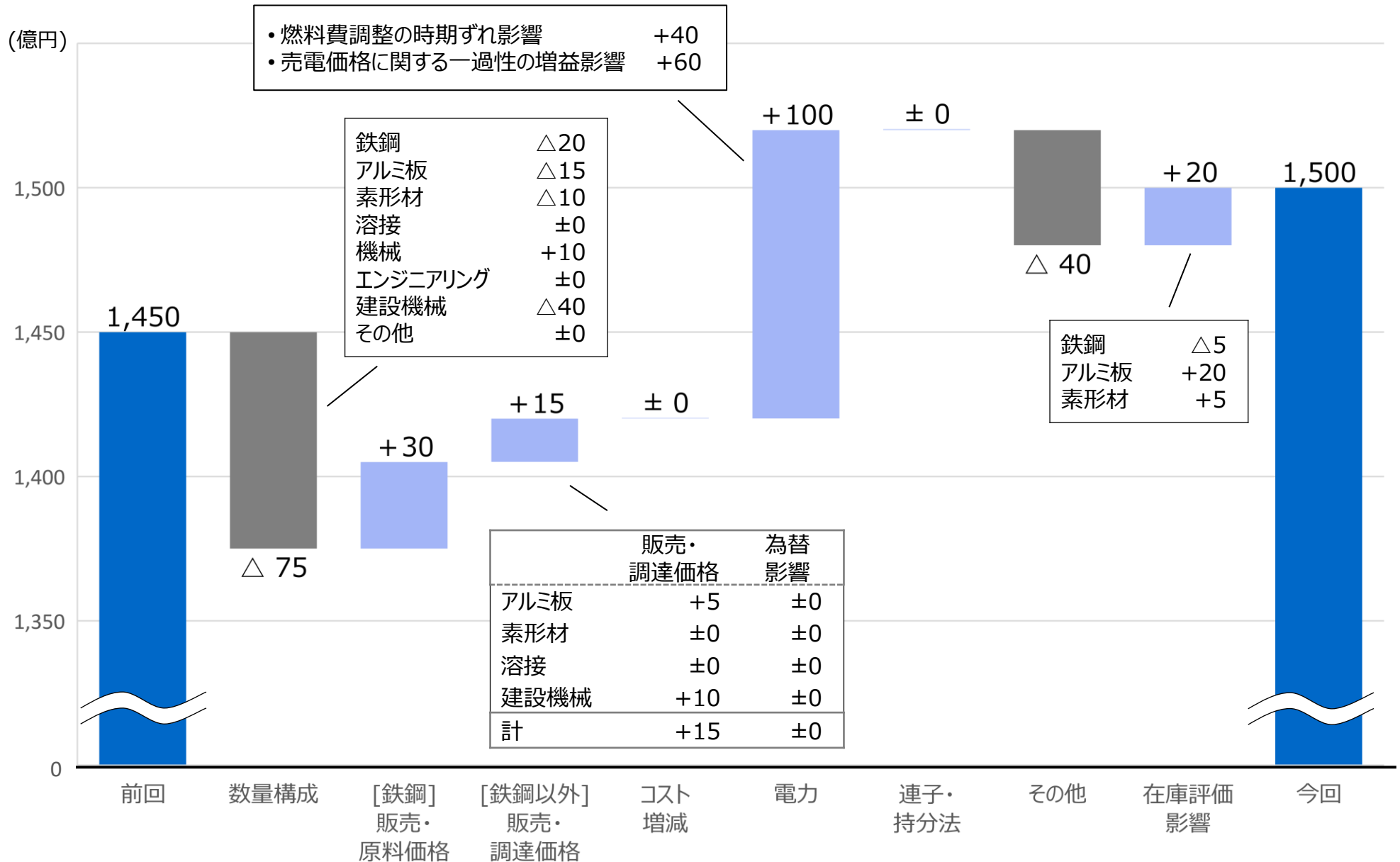
【経常損益】 前回：1,450億円 → 今回：1,500億円（前回比+50億円）

- 素材系事業・建設機械での販売数量の減少
- 鉄鋼メタルスプレッドの改善
- 機械でのサービス案件の増加や受注採算の改善
- 電力での売電価格に関する一過性の増益影響や燃料費調整の時期ずれ影響
- 在庫評価影響の改善

（単位：億円）

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	11,696	13,028	24,725	12,538	13,161	25,700	12,538	13,061	25,600	△100
営業損益	197	665	863	921	728	1,650	921	728	1,650	-
経常損益	418	650	1,068	916	533	1,450	916	583	1,500	+50
在庫評価影響を除く	193	635	828	961	453	1,415	961	483	1,445	+30
特別損益	△26	△61	△87	277	-	277	※ 277	0	278	+1
親会社株主に帰属する 当期純損益	280	445	725	803	396	1,200	803	396	1,200	-

※ 子会社における固定資産の譲渡益（8月4日プレスリリース資料参照）、他



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	5,365	5,686	11,051	5,489	5,190	10,680	5,489	5,280	10,770	+90
素形材	1,331	1,446	2,777	1,418	1,701	3,120	1,418	1,651	3,070	△50
溶接	421	462	884	464	475	940	464	475	940	-
機械 ※	927	1,106	2,034	1,032	1,397	2,430	1,032	1,367	2,400	△30
エンジニアリング	611	840	1,452	751	968	1,720	751	948	1,700	△20
建設機械	1,837	1,979	3,817	1,926	2,273	4,200	1,926	2,183	4,110	△90
電力	1,475	1,768	3,243	1,727	1,332	3,060	1,727	1,382	3,110	+50
その他 ※	42	66	109	45	54	100	45	54	100	-
調整額	△317	△328	△646	△319	△230	△550	△319	△280	△600	△50
合計	11,696	13,028	24,725	12,538	13,161	25,700	12,538	13,061	25,600	△100

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計

【経常損益】

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	223	196	419	207	47	255	207	47	255	-
素形材	14	△5	9	△0	20	20	△0	20	20	-
溶接	8	19	28	15	24	40	15	24	40	-
機械 ※	50	107	157	103	156	260	103	171	275	+15
エンジニアリング	9	32	41	62	17	80	62	17	80	-
建設機械	100	23	123	50	59	110	50	24	75	△35
電力	△13	259	245	474	225	700	474	325	800	+100
その他 ※	24	24	48	17	17	35	17	22	40	+5
調整額	1	△8	△7	△15	△34	△50	△15	△69	△85	△35
合計	418	650	1,068	916	533	1,450	916	583	1,500	+50

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計

(単位：億円)

		2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
		上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
鉄鋼	売上高	4,383	4,713	9,097	4,524	4,345	8,870	4,524	4,395	8,920	+50
	経常損益	210	279	490	259	85	345	259	80	340	△5
	在庫評価影響を除く	60	274	335	324	0	325	324	0	325	-
アルミ板	売上高	981	972	1,954	965	844	1,810	965	884	1,850	+40
	経常損益	12	△83	△70	△51	△38	△90	△51	△33	△85	+5
	在庫評価影響を除く	△42	△83	△125	△61	△23	△85	△61	△38	△100	△15
合計	売上高	5,365	5,686	11,051	5,489	5,190	10,680	5,489	5,280	10,770	+90
	経常損益	223	196	419	207	47	255	207	47	255	-
	在庫評価影響を除く	18	191	210	262	△22	240	262	△37	225	△15

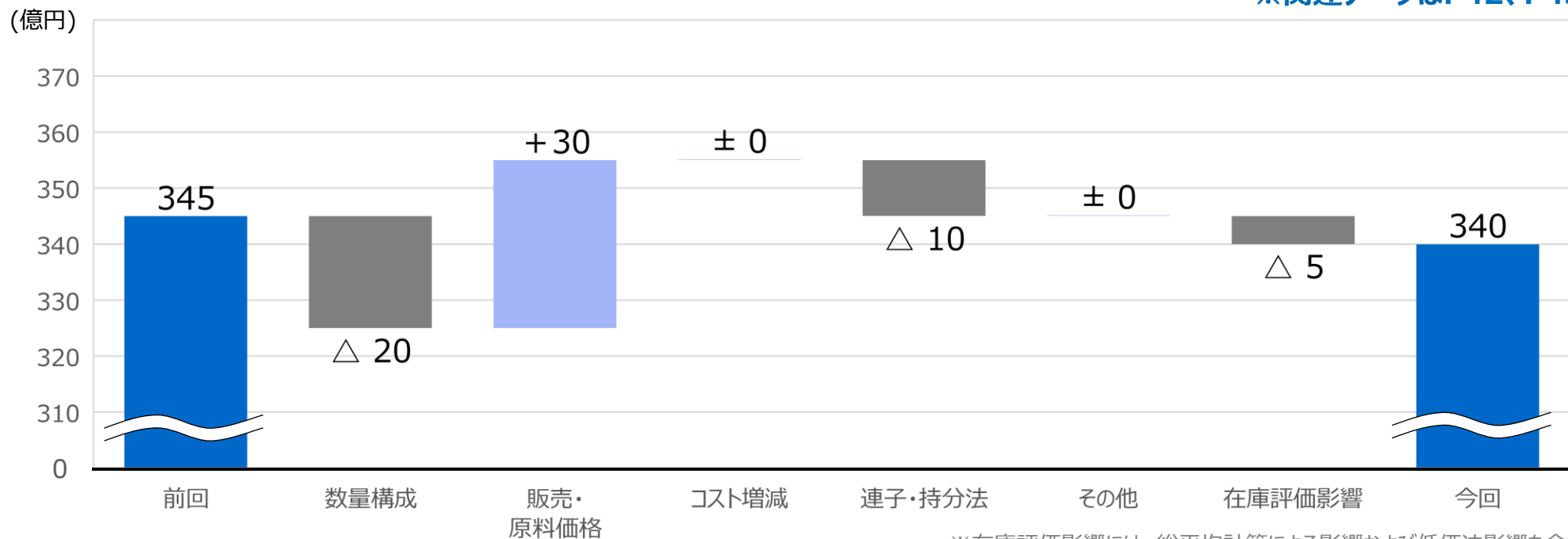
鉄
鋼

【売上高】 前回：8,870億円 → 今回：8,920億円（前回比 +50億円）

【経常損益】 前回： 345億円 → 今回： 340億円（前回比 △ 5億円）

- 粗鋼生産：590万t程度（前回比△5万t）
- 販売数量：470万t程度（前回比△5万t）
 - ・自動車向けは堅調に推移する一方、自動車向け以外の需要減により微減
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・価格交渉の進展に伴うメタルスプレッドの改善

※関連データはP42、P43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

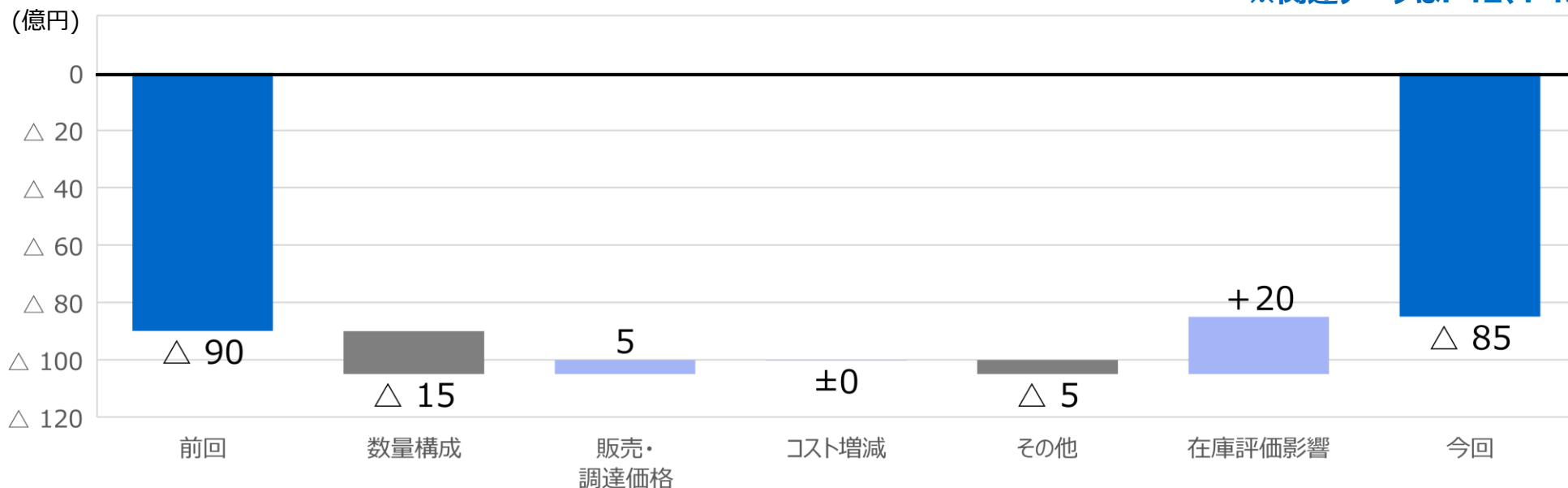
アルミ板

【売上高】 前回：1,810億円 → 今回：1,850億円（前回比 +40億円）

【経常損益】 前回：△90億円 → 今回：△85億円（前回比 + 5億円）

- 販売数量：320千t程度（前回比△20千t程度）
 - ・飲料用缶材向け：需要減などにより減少
 - ・自動車向け：前回並み
 - ・IT・半導体向け：需要調整局面の継続により減少
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・アルミ地金市況の上昇などに伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP42、P43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	1,331	1,446	2,777	1,418	1,701	3,120	1,418	1,651	3,070	△50
経常損益	14	△5	9	△0	20	20	△0	20	20	-
在庫評価影響を除く	△5	△15	△21	△10	10	0	△10	5	△5	△5

※関連データはP42、P43

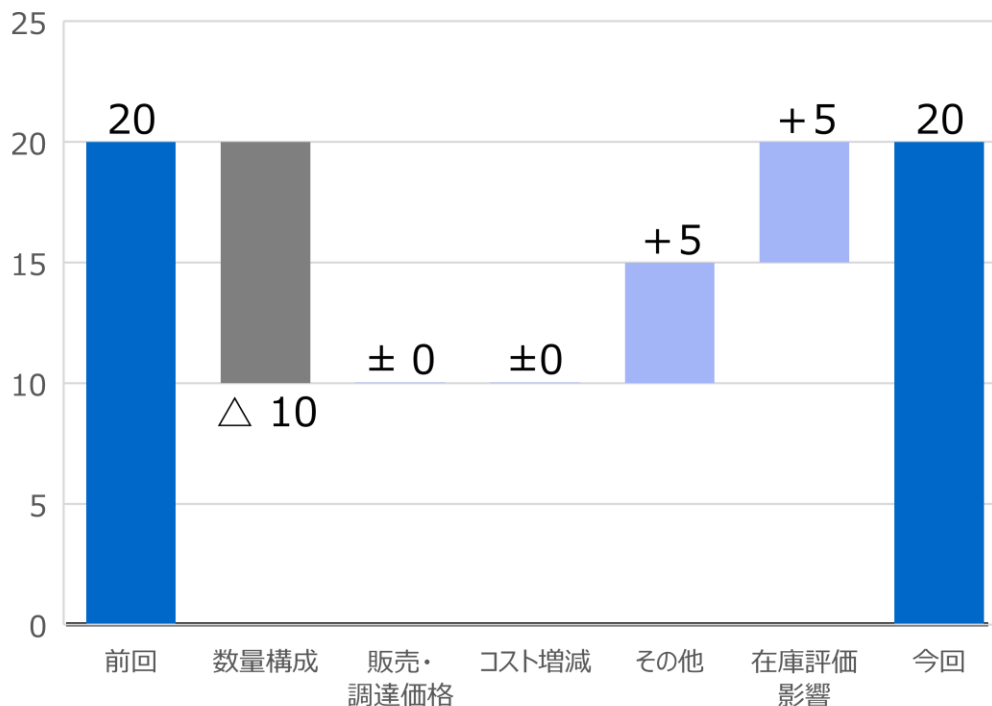
■ 販売数量

- IT・半導体向け需要の回復遅れにより、銅板、アルミ鋳鍛で減少
- 自動車向け当社受注製品の需要減などにより、アルミ押出で減少
- 鋳鍛鋼は堅調に推移

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 在庫評価影響の改善

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	421	462	884	464	475	940	464	475	940	-
経常損益	8	19	28	15	24	40	15	24	40	-

※関連データはP42

■ 販売数量

- 国内・海外：前回並み

■ 損益変動要因

- 前回並み

(単位：億円)

	2022年度実績 ※			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	927	1,106	2,034	1,032	1,397	2,430	1,032	1,367	2,400	△30
経常損益	50	107	157	103	156	260	103	171	275	+15
受注高	1,194	1,464	2,659	1,158	1,500 程度	2,650 程度	1,158	1,600 程度	2,750 程度	+100 程度

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向けを中心とした好調な受注や、サービス案件の増加などにより、過去最高を記録した前期を上回る見通し

■ 損益変動要因

- サービス案件の増加
- 好調な需要を受けた受注採算の改善

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	611	840	1,452	751	968	1,720	751	948	1,700	△20
経常損益	9	32	41	62	17	80	62	17	80	-
受注高	772	802	1,575	1,224	850 程度	2,050 程度	1,224	650 程度	1,850 程度	△200 程度

■ 受注高

- 還元鉄関連事業における海外大型案件の時期ずれなどにより、前回比で減少

■ 損益変動要因

- 前回並み

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	1,837	1,979	3,817	1,926	2,273	4,200	1,926	2,183	4,110	△90
経常損益	100	23	123	50	59	110	50	24	75	△35

※関連データはP42

■ 販売台数

[油圧ショベル]

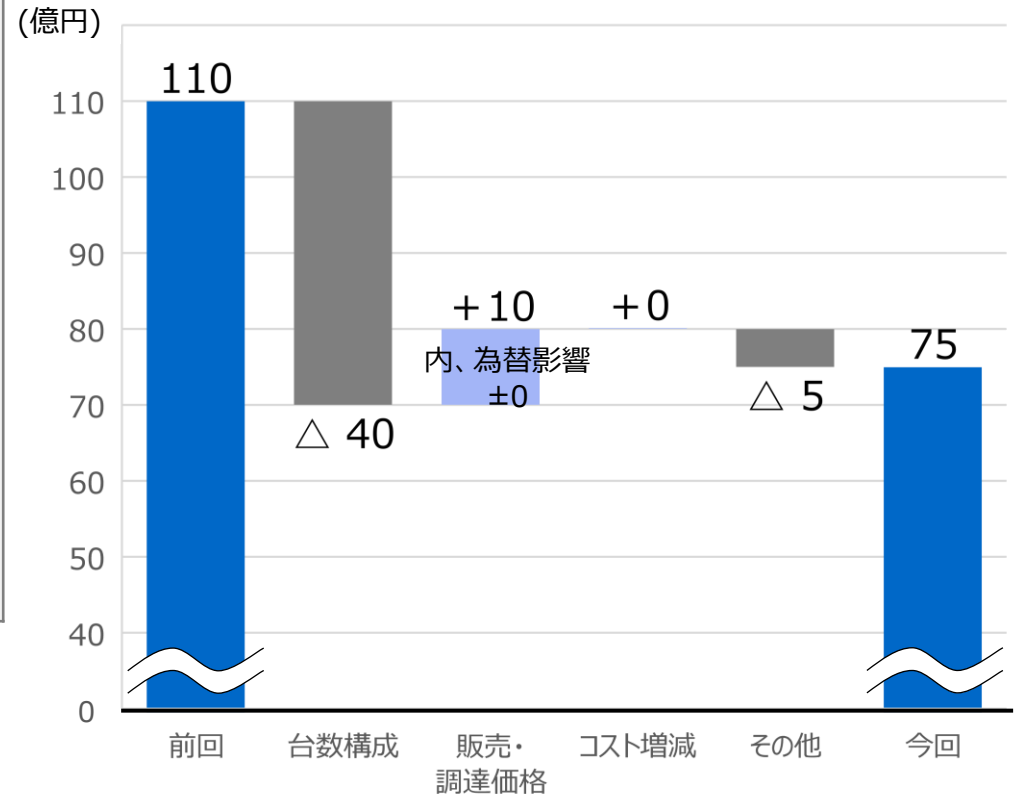
- ・ 中国は需要低迷により減少
- ・ 欧州は需要減、在庫調整により減少

[クローラクレーン]

- ・ 国内を中心に出荷のずれなどにより減少

■ 損益変動要因

- ・ 販売台数の減少



(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	1,475	1,768	3,243	1,727	1,332	3,060	1,727	1,382	3,110	+ 50
経常損益	△13	259	245	474	225	700	474	325	800	+ 100

※関連データはP48

■ 販売電力量

- ・ 前回並み

■ 販売単価

- ・ 前回並み

■ 損益変動要因

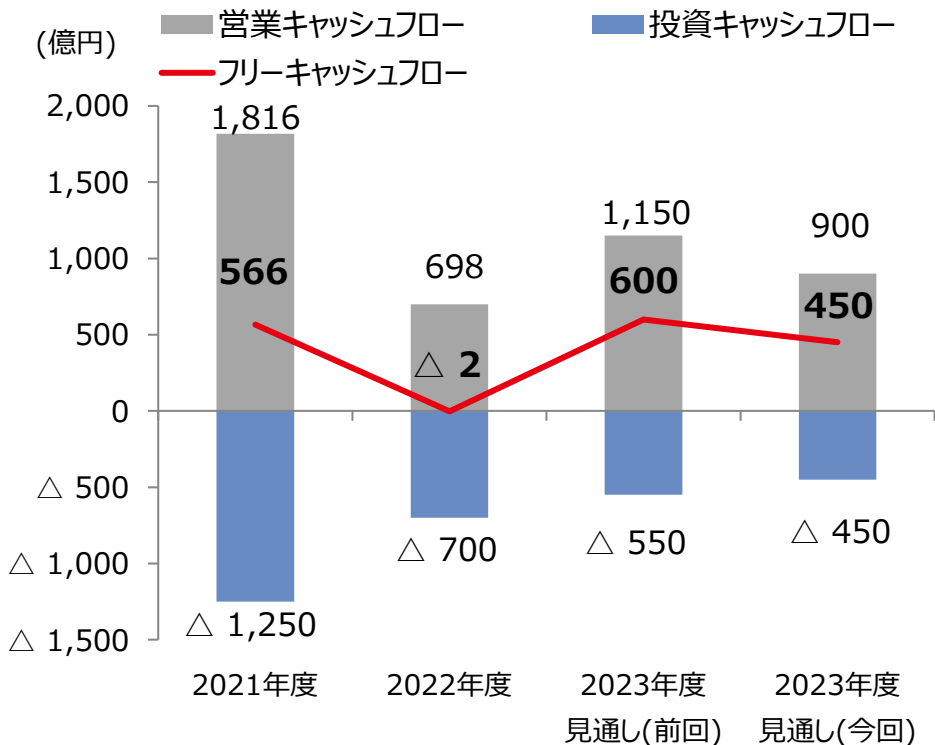
- ・ 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれに伴う増益影響の拡大
- ・ 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性の増益影響

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。
- 配当性向の目安につきましては、8月8日に公表の通り、当期より「親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の30%程度」に変更をしております。
- この方針の下、当期の期末配当につきましては、8月8日に公表の通り、1株につき45円（年間90円）とする方針です。

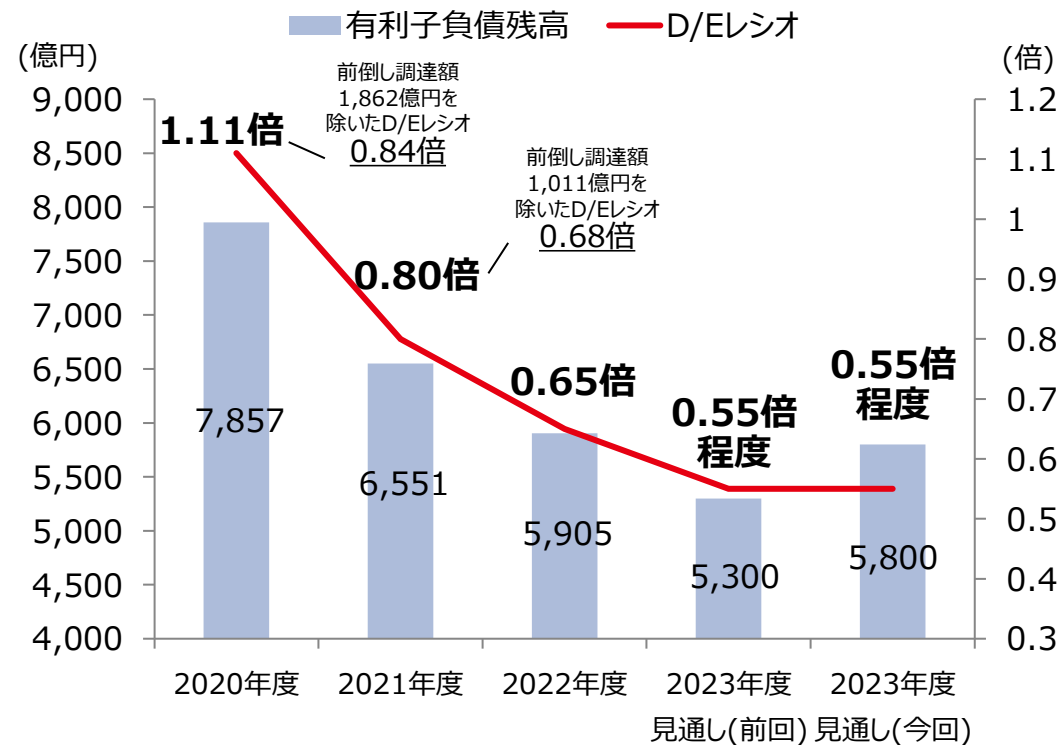
	2022年度			2023年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	15	25	40	45	45	90
配当性向			21.8%			29.6%

- 2023年度のフリーキャッシュフローは、素材系事業および建設機械事業における販売数量の減少に伴う運転資本の増加などにより、前回見通し比150億円減少の**450億円**程度の見通し。引き続き、ROIC管理における重要KPIの設定などを通じた投下資本の進捗管理を強化し、棚卸在庫の適正化をはじめとする運転資本の改善に取り組んでいく。
- D/Eレシオは、**0.55倍**程度と中期経営計画にて目標とした0.7倍以下を堅持する見通し。

《フリーキャッシュフロー》



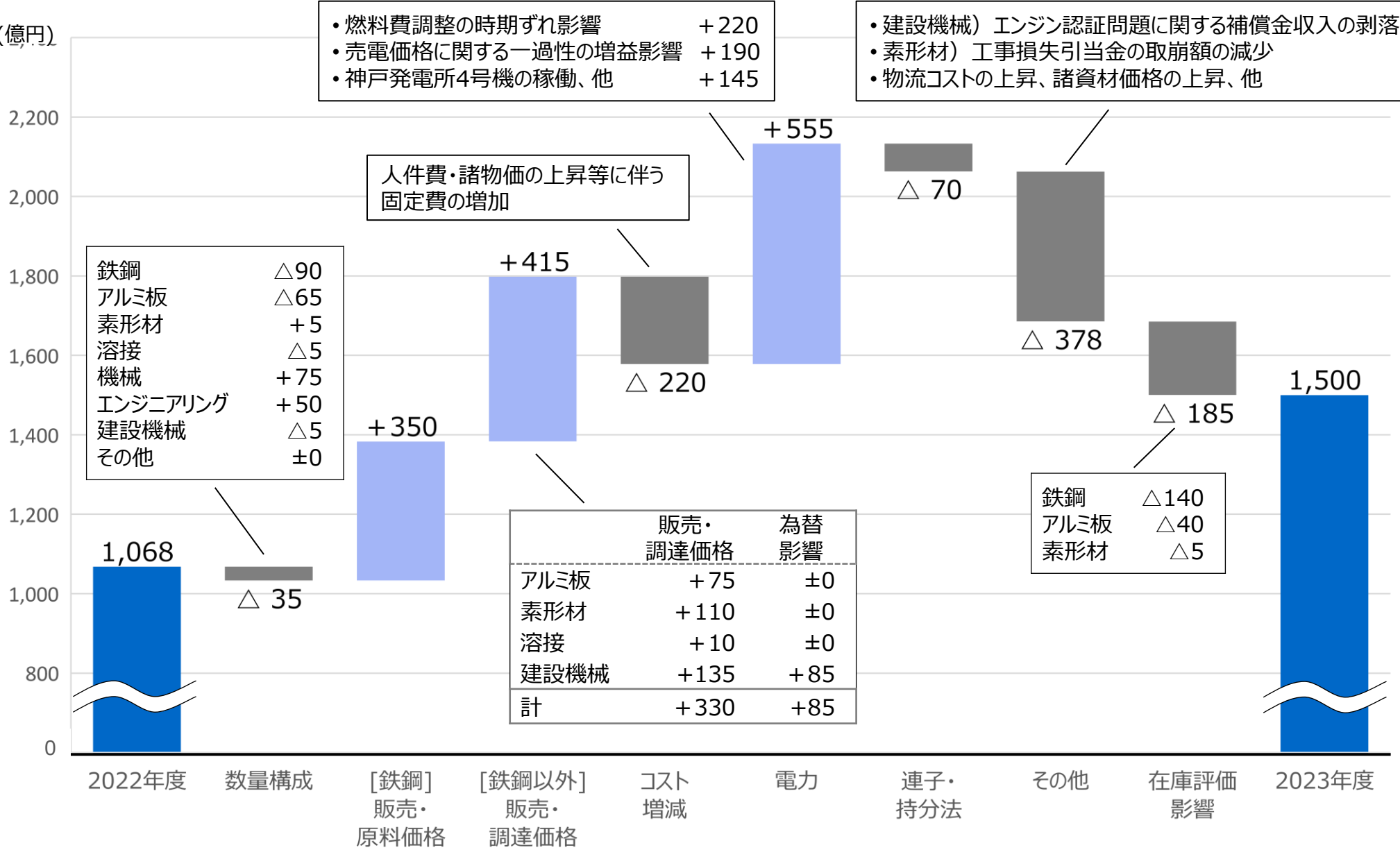
《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

4. 参考情報

(億円)



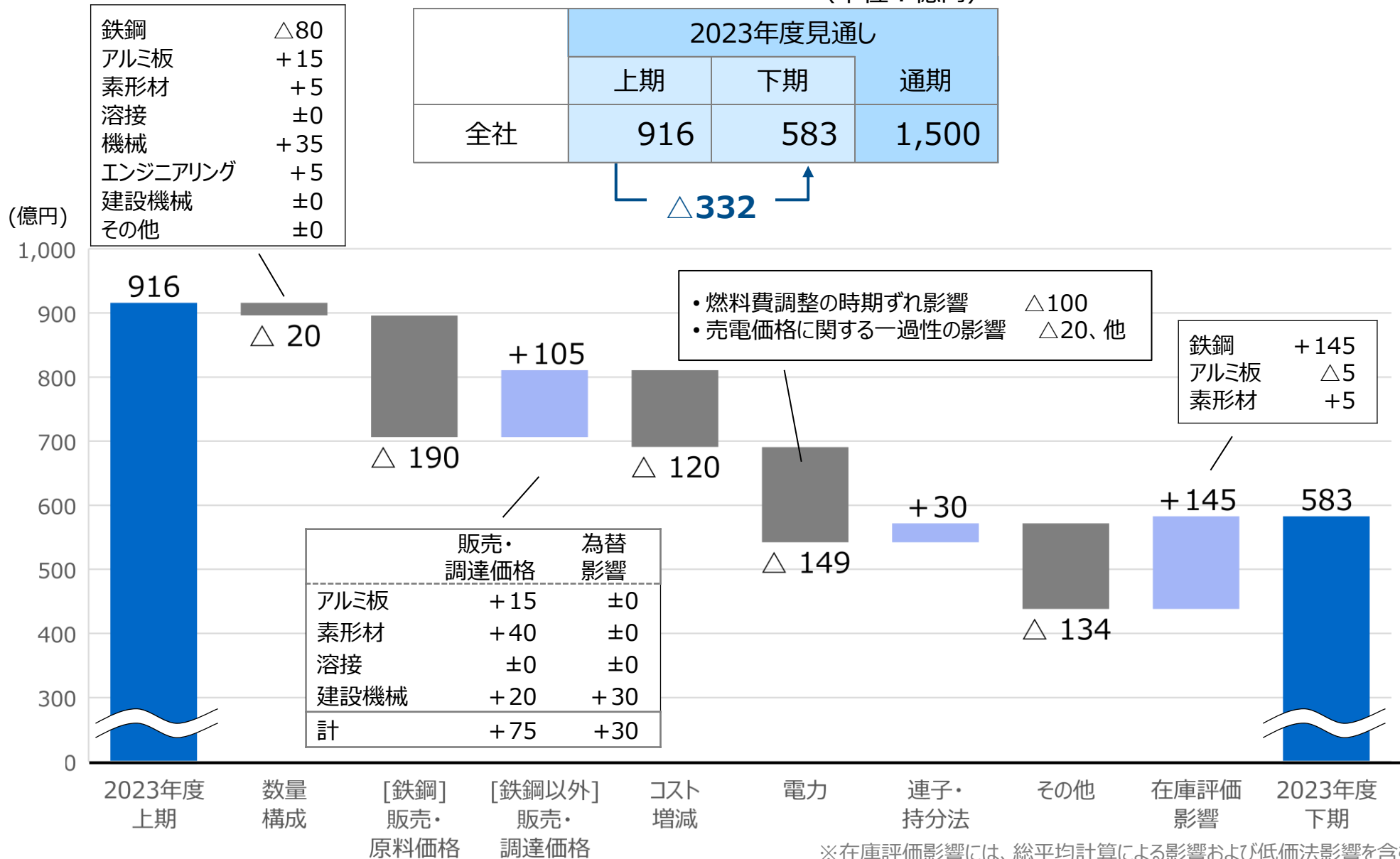
※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【全社 経常損益】

(単位：億円)

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	916	583	1,500

△332



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【鉄鋼 経常損益】

(単位：億円)

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	259	80	340

△178

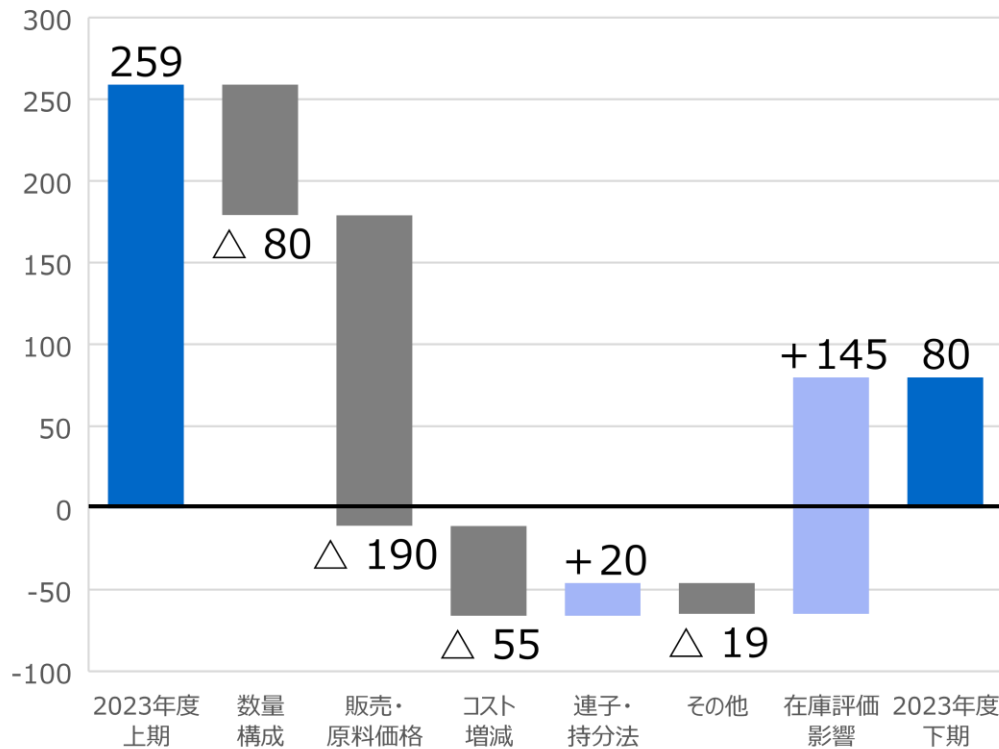
【アルミ板 経常損益】

(単位：億円)

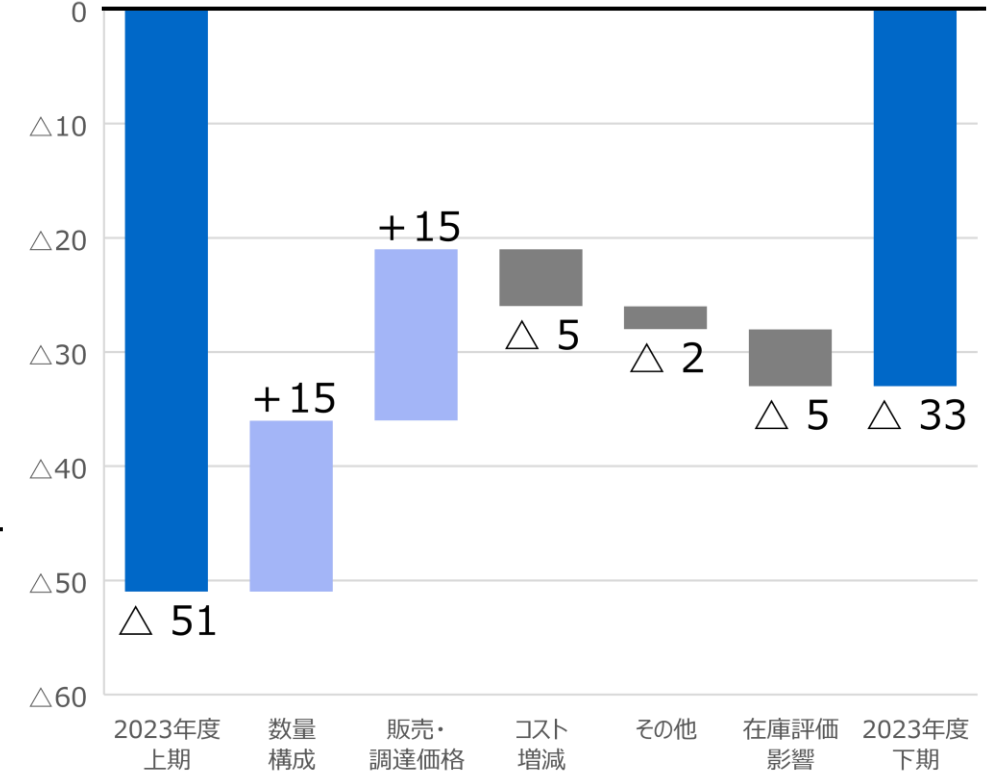
	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	△51	△33	△85

+17

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【素形材 経常損益】

(単位：億円)

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	△0	20	20

+20

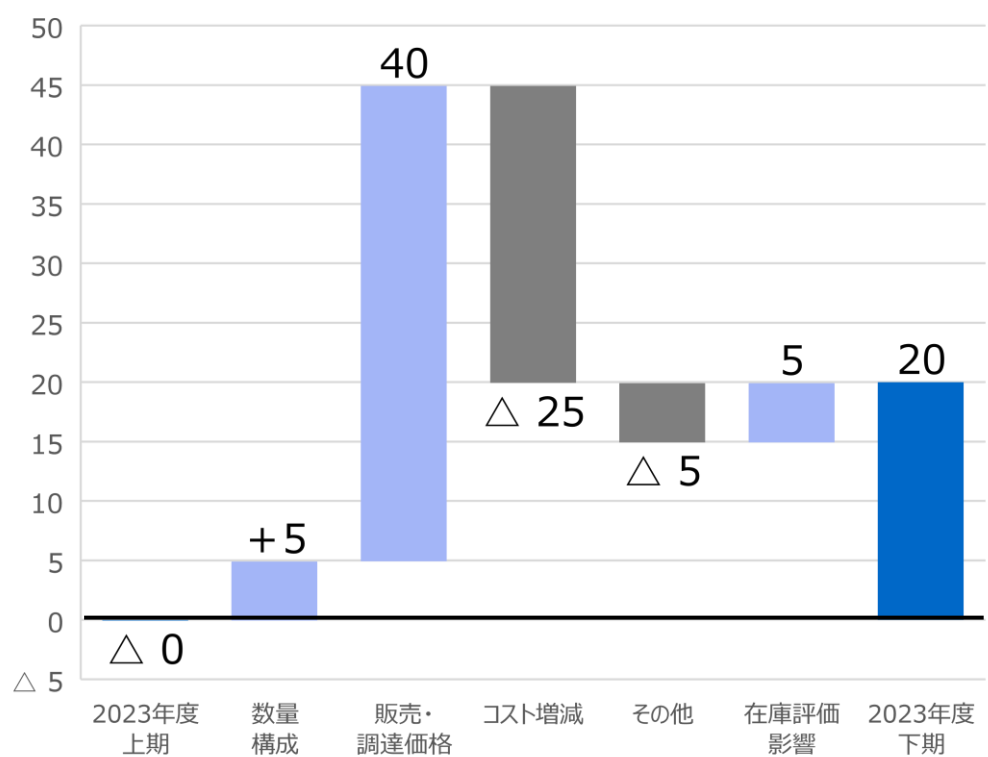
【建設機械 経常損益】

(単位：億円)

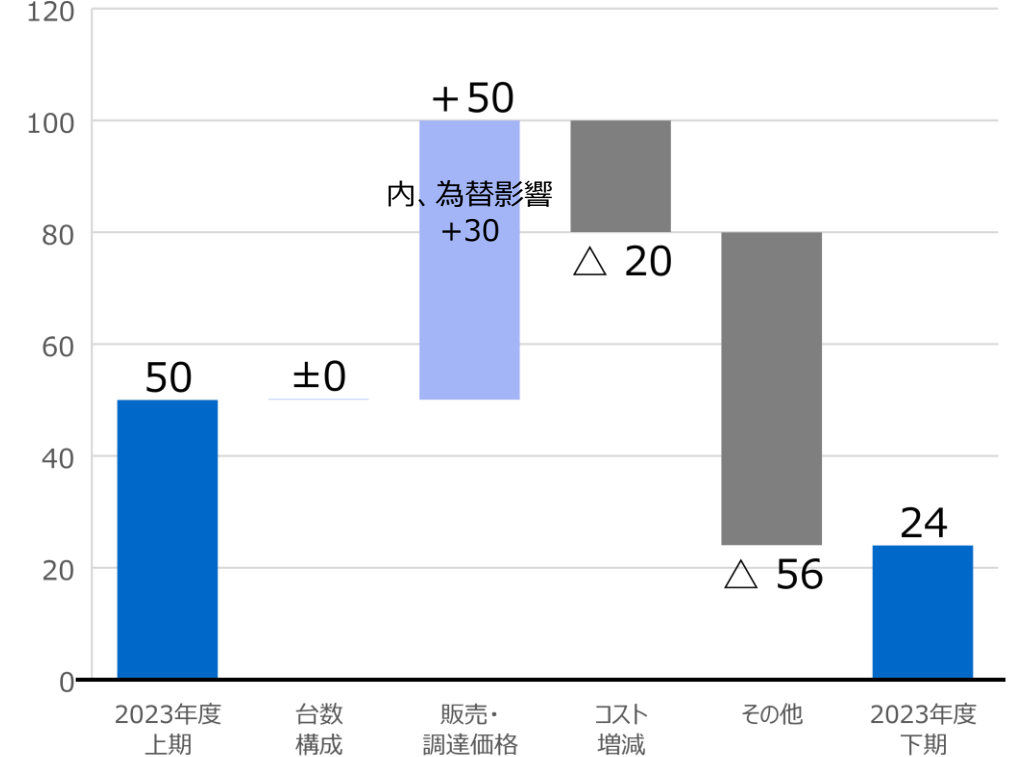
	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	50	24	75

△26

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度実績				2023年度 見通し (前回)	2023年度見通し (今回)			
	上期	3Q累計	下期	通期	通期	上期	3Q累計	下期	通期
粗鋼生産量 ※1 [万t]	315	467	304	619	595程度	309	447	280程度	590程度
鋼材 販売数量 ※2 [万t]	250	375	248	498	475程度	247	359	225程度	470程度
(国内)	(192)	(290)	(193)	(385)	(370程度)	(192)	(279)	(175程度)	(365程度)
(輸出)	(58)	(85)	(55)	(113)	(105程度)	(54)	(80)	(50程度)	(105程度)
鋼材 販売単価 [千円/t]	134.5	139.1	145.7	140.1		140.4	141.6		
鋼材 輸出比率	23.4%	22.6%	21.8%	22.6%		20.9%	21.8%		
アルミ板 販売数量 ※3 [千t]	170	254	167	337	340程度	161	238	160程度	320程度
(国内)	(119)	(174)	(113)	(232)	(245程度)	(116)	(172)	(115程度)	(230程度)
(海外)	(51)	(80)	(55)	(105)	(95程度)	(45)	(67)	(45程度)	(90程度)
アルミ押出 販売数量 ※3 [千t]	17	26	17	34	39程度	18	28	20程度	38程度
(国内)	(14)	(21)	(13)	(27)	(30程度)	(13)	(21)	(16程度)	(29程度)
(海外)	(4)	(6)	(4)	(8)	(9程度)	(4)	(7)	(4程度)	(9程度)
銅板 販売数量 ※2 [千t]	27	41	27	54	56程度	24	38	29程度	53程度
溶接材料 販売数量 ※3 [千t]	125	186	123	248	245程度	122	179	125程度	245程度
(国内)	(52)	(79)	(54)	(105)	(105程度)	(53)	(78)	(55程度)	(105程度)
(海外)	(74)	(107)	(69)	(143)	(140程度)	(69)	(101)	(70程度)	(140程度)
油圧ショベル 販売台数 ※4 [千台]	11.9	18.2	12.7	24.6	25.5程度	11.7	18.0	13.0程度	25.0程度
(国内)	(3.4)	(5.7)	(4.2)	(7.6)	(8.5程度)	(3.4)	(5.9)	(5.0程度)	(8.5程度)
(海外)	(8.5)	(12.5)	(8.5)	(17.0)	(17.0程度)	(8.3)	(12.1)	(8.0程度)	(16.5程度)
クローラークレーン 販売台数 ※3 [台]	145	217	144	289	330程度	132	221	185程度	320程度

※1：単体ベース、高砂製作所の電炉の生産数量を含む
 ※2：単体ベース

※3：連結ベース
 ※4：連結ベース、ミニショベルを含む

(単位：億円)

鉄鋼	2022年度実績				2023年度見通し			
	上期	3Q累計	下期	通期	上期	3Q累計	下期	通期
鉄鉱石	50	5	△70	△20	25	20	10	35
石炭	△30	△30	5	△25	△20	5	25	5
キャリーオーバー	20	△25	△65	△45	5	25	35	40
総平均	165	255	15	180	△70	△40	80	10
低価法	△15	△30	△10	△25	5	5	0	5
在庫評価影響	150	225	5	155	△65	△35	80	15

アルミ板	2022年度実績				2023年度見通し			
	上期	3Q累計	下期	通期	上期	3Q累計	下期	通期
総平均	55	55	10	65	5	15	5	10
低価法	0	0	△10	△10	5	5	0	5
在庫評価影響	55	55	0	55	10	20	5	15

素形材	2022年度実績				2023年度見通し			
	上期	3Q累計	下期	通期	上期	3Q累計	下期	通期
総平均	25	30	5	30	10	20	15	25
低価法	△5	△5	5	0	0	0	0	0
在庫評価影響	20	25	10	30	10	20	15	25

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し (前回)	2023年度 見通し (今回)
営業キャッシュフロー	214	2,100	1,816	698	1,150	900
投資キャッシュフロー	△1,334	△819	△1,250	△700	△550	△450
プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	△1,120	1,281	566	△2	600	450
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー	△1,919	529	72	224	1,100	1,000
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高	1,349	3,018	2,432	1,454	1,100	1,500

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し (前回)	2023年度 見通し (今回)
設備投資：計上額	2,398	1,850	1,081	973	1,200	1,150
設備投資：支払額	2,453	1,732	1,564	989	1,000	950
減価償却費	1,053	1,008	1,051	1,125	1,200	1,200

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し（前回）	2023年度 見通し（今回）
1株当たり当期純損益	△187.55円	64.05円	160.23円	183.80円	303.83円	303.83円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	9,084億円	8,618億円	7,750億円	8,250億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	6,551億円	5,905億円	5,300億円	5,800億円
D/Eレシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	※4 0.80倍	0.65倍	0.55倍程度	0.55倍程度
ROS ※5	△ 0.4%	0.9%	4.5%	4.3%	5.6%	5.9%
ROA ※6	△ 0.3%	0.6%	3.5%	3.8%	5.0%	5.1%
ROE ※7	△ 9.7%	3.4%	7.9%	8.4%	12.3%	11.8%
ROIC ※8	0.9%	1.1%	4.7%	4.9%	6.9%	6.7%

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※4：前倒し調達（1,011億円）含む。前倒し調達除く2021年度D/Eレシオ：0.68倍

※5：売上高経常利益率

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※8：税引後事業利益/投下資本

	2022年度実績				
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期
	USドル (円/\$)	135.3	139.9	136.9	133.4
中国元 (円/元)	19.9	19.6	19.8	19.4	19.7
ユーロ (円/€)	139.1	144.2	140.8	144.0	141.6

	2023年度 (今回)					2023年度 (前回) 通期
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期	
	USドル (円/\$)	142.6	146.1	143.8	145.0	
中国元 (円/元)	19.9	20.3	20.0	20.0	20.0	19.9
ユーロ (円/€)	154.8	159.1	156.2	155.0	155.9	154.9

【為替の感応度分析】

USドル1円 円安に伴う今後の業績影響

鉄鋼 : + 1億円程度 (ドルバランスの影響△1億円、在庫評価影響・販売価格への転嫁等+2億円)

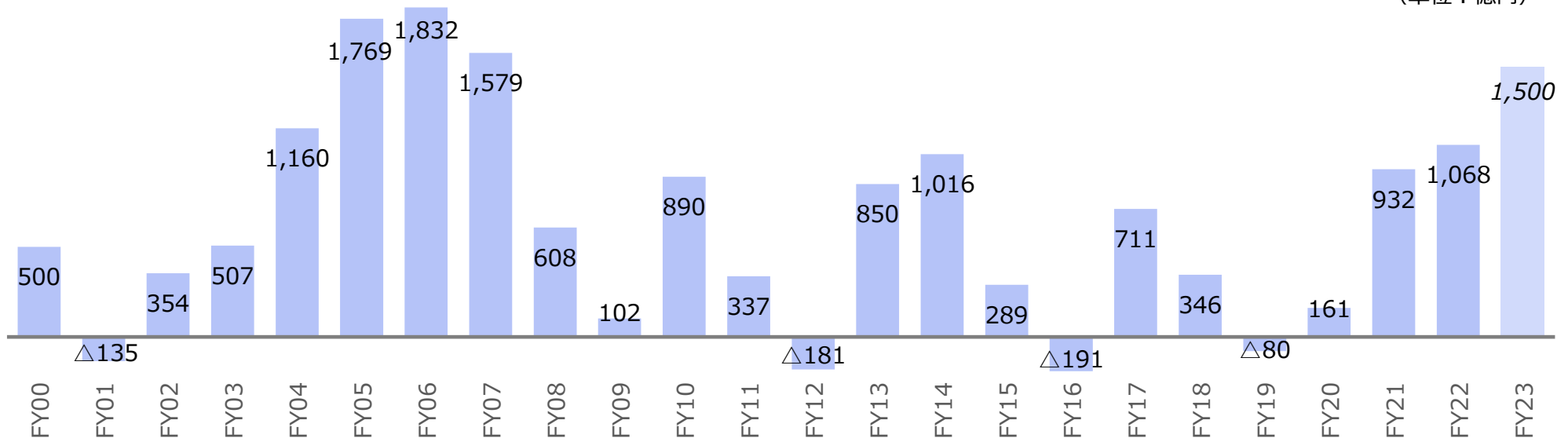
建設機械 : + 0億円程度

ユーロ1円 円安に伴う今後の業績影響

建設機械 : + 1億円程度

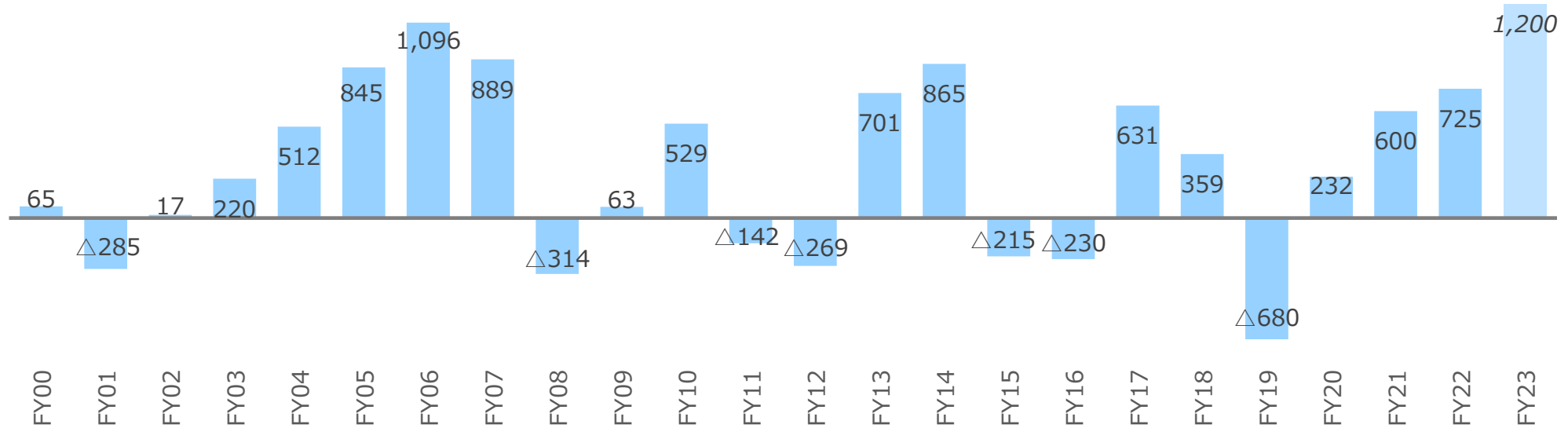
【経常損益】

(単位：億円)



【親会社株主に帰属する当期純損益】

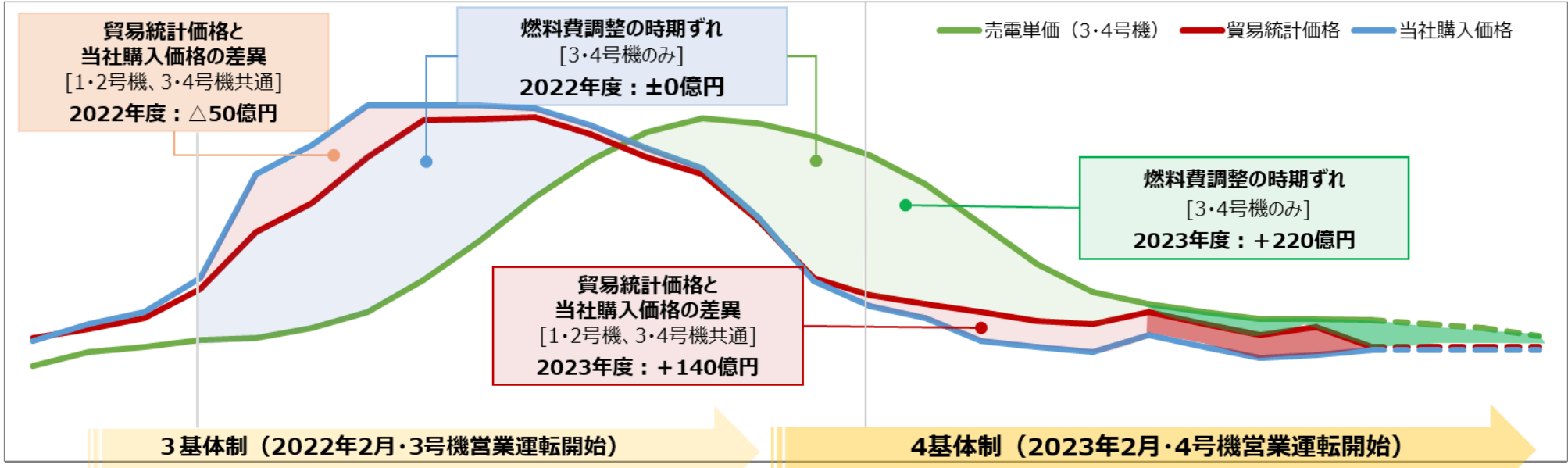
(単位：億円)



・ 当社の石炭火力発電会社が受領する燃料費相当の電力量料金は、契約時の設定燃料費に、石炭の輸入貿易統計価格（全国平均値）の契約時からの変動代を調整して計算される。

期間損益の主な変動要素	2022年度	2023年度		対前期	対前回
	実績①	前回②	今回③	③-①	③-②
燃料費調整の時期ずれ [3・4号機のみ] ・ 石炭価格の上下に伴い必ず生じる。 （3～5ヶ月前の貿易統計値を参照） ・ 長期で見れば増益・減益が相殺される。	±0億円 上期 △100億円 下期 +100億円 3Q累計△120億円	+180億円 上期 +160億円 下期 +20億円	+220億円 上期 +160億円 下期 +60億円 3Q累計+170億円	+220億円 上期 +260億円 下期 △40億円 3Q累計+290億円	+40億円 上期 -1億円 下期 +40億円
売電価格に関する一過性の損益影響 [1・2号機、3・4号機共通] （貿易統計価格と当社購入価格の差異） ・ 基本的には乖離が生じない仕組みでの購入を方針とするものの、外部要因にてイレギュラー的に発生する可能性あり。	△50億円 上期 △50億円 下期 -1億円 3Q累計 △60億円	+80億円 上期 +80億円 下期 -1億円	+140億円 上期 +80億円 下期 +60億円 3Q累計+140億円	+190億円 上期 +130億円 下期 +60億円 3Q累計+200億円	+60億円 上期 -1億円 下期 +60億円

≪石炭貿易統計価格と当社購入価格の推移（イメージ）≫

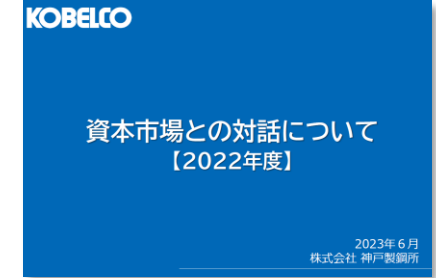


2022年1月 2022年3月 2022年5月 2022年7月 2022年9月 2022年11月 2023年1月 2023年3月 2023年5月 2023年7月 2023年9月 2023年11月 2024年1月 2024年3月

資本市場との対話

当社は持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて、資本市場との対話を積極的に行っており、その内容を、ホームページに開示しています。

[capital_markets_22.pdf \(kobelco.co.jp\)](https://www.kobelco.co.jp/capital_markets_22.pdf)



社会からの評価 (主なもの)

◆ FTSE4Good Index Series
(2021年6月～)



FTSE4Good

◆ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
(2022年3月～)



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

◆ FTSE Blossom Japan Index
(2021年6月～)



FTSE Blossom Japan

◆ CDP
(2020年12月～)



「気候変動」で「A-」の評価を
4年連続で獲得

◆ ディスクロージャー優良企業

ディスクロージャー
2023年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

◆ MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX ※
(2022年6月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

◆ MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN) ※
(2022年12月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

※THE INCLUSION OF KOBE STEEL, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF KOBE STEEL, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI.

MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

<p>KOBELCOが 実現したい未来</p>	<p>「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来</p> <p>安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。</p>
<p>KOBELCOの 使命・存在意義</p>	<p>KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命</p> <p>個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。</p>
<p>KOBELCOの 3つの約束</p>	<p>KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
<p>KOBELCOの 6つの誓い</p>	<p>「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重 <p style="text-align: center;">品質憲章</p>

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化